

令和六年度 第一学期終業式 校長式辞

おはようございます。楽にして聞いてください。

本日で令和六年度第一学期が終了します。

皆さんにとって、この一学期はどんな学期だったでしょうか？一年生の中には四月に入学後、親元を離れ寮や下宿で過ごすようになった人、慣れない遠距離の通学をするようになった人も多くありました。新しい友達はできたでしょうか？二年生は、一年生時とはクラスが変わり、各学科・コース毎の専門的な授業も多くなりました。三年生は、部活動の締めくくりの時期、引退した人もありますが、いよいよ卒業後の進路決定に佳境の時期（いわゆるクライマックス、大切な時期、将来の活躍に結び付く進路を決定する時期）を迎えました。

この一学期も多くの人が、学習や資格取得、研究活動、部活動、意見・体験発表、コンテストなどで大変活躍しました。昨日の伝達表彰や壮行会であったとおりです。先生方、私もうれしく思っています。たとえ上位大会への出場や大会優勝などが叶わなくても、日々の厳しい練習に根気強く取り組んできたこと、また流した汗や涙は、競技力向上だけでなく、体力作りや仲間との一体感を深めることにつながり、必ず自分の大きな財産として、今後の人生に彩りを添えてくれます。昨年の夏は、記録的な暑さであったと言われました。今年も、太平洋赤道域東部のラニーニャ現象（海面水温が平年より低い現象）の影響で、太平洋高気圧の、日本付近への張り出しが強くなり、この夏も暑くなる

という予想がされています。そんな暑い夏だとは思いますが、それぞれ、本校、京都府（また日本）の代表として、健闘してもらうことを応援しています。

終業式に際し、一つだけ、お話ししておきます。

先日、大阪大学元総長の鷲田清一先生の講演を聞く機会がありました。今生きている世の中は、VUCAの時代と言われています。（VUCAとは、「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を取ったもの）。例えばコロナもその例です。その講演の中で、これからの時代を担う子どもたちに身に付けさせてあげたい力は、「想定外のことが起こった時に、一つのやり方にこだわらず、フレキシブルに（柔軟に）対応できる力である。」とおっしゃっていました。このためには、鷲田先生は、さまざまな大人、人の考え方に触れることがよい。親戚の人でもよい、近所の人でもよい、先生でもよい、書物（本）でもよい、接点がある人の考え方に触れ、自分の生き方の参考にすること。また、話を聞いたり、注意を受けたり、叱られたりしたとしても、謙虚に受け止める力、糧として次の改善に生かしていく力も求められます。例えば、反発をしていますが、同じことの繰り返しで、改善は期待できないということです。皆さんも、是非改善する姿勢を大切にしてください。

さて、七月二十六日から、パリオリンピック二〇二四が開会します。それぞれの種目で、国内予選を勝ち抜いたドラマを背負い出場するチームは、また、世界の舞台でドラマを展開してくれるものと期待しています。皆さんは、この夏休みに、どんなドラマを展開することができでしょうか？

高校生の時期は、中学生までとは違って、限りなく大人に近い年代です。与えられるものを待つのではなく、自分に価値があるものを見極め、求めていく姿勢が必要となります。

一年生は学科・コース選択、二年生は資格取得・専門学習を深める、三年生は進路対策などのように、学年や年齢により、また、求める将来の進路などにより、それぞれ価値があるものは異なります。「読書」「部活動」「体を鍛える・スポーツ」「学習」「資格取得」「進路に対する活動」「ボランティア活動」「趣味」「特技」などなど・・・夏休みは、新たなことも含めて、自分の成長のために、価値や意義があることを挑むのに適したチャンスの期間です。夏休みのような長期の休みの期間でしかできないこともあります。

是非、計画や目標を立て、攻めの姿勢で、有意義な夏休みになるよう取り組んでください。

終わりに、長い夏休みが始まりますが、交通事故（ブルーインパルス展示飛行でも交通量や来訪者が増える予想もあります。）、水の事故（報道のとおり、つい先日府内の高校生が死亡しています。）、怪我や感染症から、自分の身を自分で守り、八月二十八日（水）、皆さんが元気な姿で、二学期始業式を迎えられますことを願っております。

令和六年七月十九日

校長 上林 秋男

以上です。